

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	33・1	学校名	清水南高等学校・同中部	校長名	小野田 秀生
------	------	-----	-------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%	中部部 91.1% 高 校 78.1% 全 体 84.6%	B	高校生は、昨年の75.6%より若干上昇している。定期試験等の準備、振り返りの指導をすることで生徒が授業の成果を感じられるようにする。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%	中部部 85.9% 高 校 73.7% 全 体 79.8%	B	高校生は、昨年の68.6%より改善している。高校各学年の学習計画と学習時間のシート、中部部のすららドリル等の活用の成果と考える。今後も担任や学年部だけでなく、学校全体で方策を考えて進めていく。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計12回	校内演奏会6回、校外演奏会2回、特別レッスン2回、課外授業3回、計13回。 9月の校内演奏会はコロナ禍のため中止。	A	生徒の学びの機会を確保することができた。来年度もコロナ対策をしっかりと講じ、生徒の演奏機会を確保する。
		美術鑑賞、実技講習会等 実施回数：年間計10回	実技講習会8回、デッサンコンクール3回、美術鑑賞1回（予定）、計12回。	A	コロナ禍ではあったが、予備校の協力などを得られ、講習会などを実施することができた。
		授業公開週間実施回数：年間3回 外部講師による講演満足度：80%	「ちょっと見」「ちゃんと見」を合わせて3回実施し、教職員の満足度も高かった。 外部講師による講演を2回実施。満足度72%	B	次年度も継続したい。授業公開週間については、今後持ち方等を工夫し、さらに充実した研修になるようにしたい。外部講師による講演は、教職員の求めるニーズをしっかりと把握し、講演内容を吟味していきたい。
		アクティブ・ラーニングの実施に取り組む教員の割合：80%	アクティブラーニング型の授業をしていると答えた教員 中部部 88% 高 校 63% 全 体 71%	B	目標に届かず次年度の課題となる。授業公開週間などの研修を通して、生徒の主体的な学習を大切にした具体的な授業の展開を共有したい。また、授業改善に関する意識の向上を今後の課題とする。
		測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組んだ教員：80%	授業リサーチや外部模試などの結果を分析し、生徒の現状を把握するとともに、授業改善に取り組んだ。 ※各教科の評価 A：4教科 B：5教科	B	模試や授業リサーチの結果分析をもとに、授業の内容や小テスト・定期試験等の内容を工夫した。教科レベルでの分析・改善はできているが、学校全体で共有する仕組みが必要である。

様式第3号

		「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%	<p>中等部 84.7%</p> <p>※中等部「表現」の授業についての評価</p>	A	<p>目標は達成されているが、先を見通して、状況に応じて行動することができればなお、「表現」の価値が見いだせると考えている。次年度は根本的にシラバスについて考え直し、指導計画の見直しを実施する。</p>
イ	こころざしを育む進路指導の充実を図る。	講演、講義等の回数：年間計10回	<p>中1 職業講話2回・ベネッセ1回・進路課長2回</p> <p>中2 社会人交流2回・ベネッセ1回・進路課長1回</p> <p>中3 職業講話6回・ベネッセ2回・進路課長2回</p> <p>高1 大学見学1回・ベネッセ2回・進路課長1回</p> <p>高2 出張講義1回・ベネッセ2回・進路課長2回</p> <p>高3 河合塾2回・各種入試分析会6回</p> <p>上記以外各学年進路集会等を4回以上実施</p>	B	<p>(中等部) キャリア教育に関わる講義や講演等を外部講師や静大のキャリアサポートなどを活用して計画的に行うことができた。</p> <p>(高校) 大学見学や対面の出張講義ができたことで、進路実現へのモチベーションが向上した。</p> <p>(中等部課題) 「やりがい」から「仕事」「進路」へとつないでいく際の個々への面接指導等が必要であることはわかるがその時間をなかなか確保できていない。</p> <p>(高校課題) 「総合的な探究の時間」に変わったことで、それまで比較的学年主導で実施していた進路指導を適切なタイミングで実施できなくなって困っている声が多数上がっている。</p>
		「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%	<p>中等部 83.1%</p> <p>高校1年 80.6%</p> <p>高校2・3年 92.7%</p>	A	<p>講演会や各種分析会、個人面談、志望校研究等を通して、考える機会は増えている。しかし、理想の進路を実現していくには学力が必要であるが、忍耐強く学力を養成していく力が不足している。</p>
		<p>[中等部] 学力到達度調査 評価A以上：30%以上(3年)</p> <p>[高校] 模試全国偏差値：1年間で+3(1・2年)、2年次の成績維持(3年)</p>	<p>[中等部] 学力到達度</p> <p>A 3以上 21%</p> <p>B 1以上 33%</p> <p>[高校]</p> <p>高1</p> <p>(7月) 50.5 →</p> <p>(11月) 51.4 +0.9</p> <p>(1月) 53.3 +2.8</p> <p>高2</p> <p>(7月) 54.9 →</p> <p>(11・1月) 53.8 -1.1</p> <p>※3教科</p> <p>5教科 52.0</p> <p>高3</p> <p>(高2 2月)マ 52.5 →</p> <p>(高3 6月)マ 52.0 →</p> <p>(9月)マ 49.1 →</p> <p>(11月)マ 50.2</p> <p>-2.3</p>	C	<p>B2・B3の生徒が35%いることが目標を達成できていない原因である。学年の3割以上がC1～D3の層にいる現実とどう向き合っていくかが今後の課題である。学習意欲の低い生徒等で構成されている。別々の指導が必要である。</p> <p>高1は1月模試の結果で目標をほぼ達成できたが、高2は、目標を達成できていないため、来年度の目標値を変更するか検討を要する。高2では5教科になった11月で7月の結果を維持したい。また、高2の2月マークでできるだけ5教科偏差値を55近くにもってこれなければ、3年次11月で53を担保することは難しい。</p>

様式第3号

ウ	効果的な生徒指導・保健指導を推進することで、規範意識と自己肯定感を高め、心身ともに健康な生徒を育成する。	「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%	中等部 86.3% 高校 70.7% 全体 78.5%	C	コロナ禍で、挨拶活動が十分できなかったため、来年度は充実させたい。中等部は生徒会主催のプロジェクトなどもあり、意識に訴えかけることができた。
		教員参加による交通安全街頭指導の実施：年間10回	定期的に行うことができ、年間10回を達成した。	B	交通委員を中心に街頭指導は定期的に行っている。 今年度は苦情電話の件数が激減した。教員が街頭指導に参加することで意識を高めていきたい。
		「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：70%	中等部 77.9% 高校1年 50.0% 高校2・3年 66.0%	C	中等部では目標を達成しているが、高校生では割合が低く、特に高校1年生の低さが課題である。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%	中等部 63.3% 高校1年 46.8% 高校2・3年 66.8%	C	中高ともに自己肯定感が低くなっているのが課題である。
		「相談室だより」発行：年間5回 生徒向け掲示板更新：毎月1回	相談室だよりは12月現在で4回発行。生徒向け掲示板更新も月1回以上の更新を続けている。	A	目標は達成できているが、これらの業務が予防的措置の目標を達しているかどうかの検証は必要である。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%	中等部 77.9% 高校 68.7%	C	今年度はコロナ禍もあり、学校における相談の受け入れ体制以上に、相談したい生徒や心の不安定な生徒が増加した。 スクールカウンセラーの予約は常に満員で、臨時のスクールカウンセラーが常に必要な状態になっている。また、教育相談室や担任、副担が対応している生徒の数が多く、本来声をかけるべき生徒に声をかけきれていない現状もある。現状の体制ではマンパワー不足は否めず、カウンセラー複数体制を恒常的に行うなど予算的な措置も必要である。
		「保健だより」の発行：年間12回	毎月1回の「保健だより」を発行済み。年間で12回発行した。	A	新型コロナウイルス感染症に関する話題のほか、思春期やジェンダー等様々な内容を取り上げて発行することができた。今後も生徒の実情に即した内容を精選する。
エ	学校行事、部活動等の充実を図り、社会性と自立心を育成する。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上	中等部 85.9% 高校 78.4% 全体 82.2% コロナによる活動の制限も影響していると分析している。	B	中等部、高校ともに一生懸命取り組む生徒の割合が減少しており、高校は目標を下回った。家庭学習の習慣がついていない生徒も多く、今後「部活動全員加入」を継続するか、あるいは成果目標自体についても検討する時期に差し掛かっている。
		部活動ガイドラインの遵守および各部活での毎月の活動計画	各部活動で活動計画表を作成していたが、ホームページへの掲載につ	B	年度当初に示したものを徹底することができなかった。月ごとのとりまとめ、掲載の仕方を明確にする。

様式第3号

	作成と、生徒・保護者への周知	いては徹底することができなかった。 保護者アンケート調査結果 64.0%			
	海外研修で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上 海外交流行事実施：1回以上	「充実していた」「まあ充実していた」と答えた生徒 96.0% ※R3年度は北陸方面に目的地を変更して実施	A	泊数の減、2回の行き先変更など実施自体も危ぶまれたが、限られた時間、条件の中で結果的に満足度の高い研修の計画・実施ができた。北陸は気候、産業、文化等学ぶことが多く国内研修先としても適していた。状況が改善され次第、海外へ戻して行けたら良い。	
	奉仕活動・社会貢献活動経験生徒：60%以上	コロナの関係で活動がままならず、3学期に各部活動で奉仕活動を実施することで目標を達成できた。浜清掃など学校全体で行う行事が出来なかったのも影響している。	B	部活動単位でボランティアを実施し、実際には60%以上の生徒がボランティア活動をしているが、それがボランティア活動であるという意識が薄い。アンケートの結果は24.3%に止まるので、引き上げる工夫が必要である。	
	「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：70%	中等部 86.3% 高 校 69.5% 全 体 77.9%	B	コロナ禍で、生徒会活動や部活動が縮小・中止されることが多かったため、生徒が主体的に活動できる場面が少なくなってしまった。 充実していると答える生徒の割合が年々減少していることから、生徒の変化に対応するよう学校全体で検討する必要がある。	
	全校読書会の生徒充実度：70% 図書館貸出数：4,000冊以上	全校読書会の生徒充実度 中等部 85% 高 校 77% 図書館貸出数：297.3冊/月（4月～12月） 年間約3,600冊	B	中、高それぞれが学年を越えて意見を交換し合うことで、広い視野と深い考察を得ることができた。運営の仕方については検討が必要である。 貸出冊数は、図書委員会でいろいろ企画を立てたが、目標には達しなかった。	
オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを推進する。	土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	参加者数(3回)：1,888人（一般819人、保護者1,069人） アクセス：年間1,151,295件	A	土曜オープンスクールは、コロナ禍でも3回開催することができ、来場者数もHPのアクセス件数と共に顕著な数字を出せた。 チラシのデザイン等を大幅に変更、CM動画も作成するなど次年度につながる十分な広報活動ができた。
		PTA だより・学年だよりの発行：合わせて年間5回以上 学年保護者会の出席率：50%以上	毎月発行する学年も多く、すべての学年で学年だよりを発行した。 学年保護者会出席率 中等部 63% 高 校 57% 全 体 60%	A	様々な行事での生徒の様子、進路など時期を捉えて保護者・生徒に効果的な情報発信ができた。 コロナ禍の開催ではあったが、保護者のニーズに合った内容にすることで出席率達成につながった。

様式第3号

		<p>実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率： 中等部 75%、高校 45%</p>	<p>防災訓練年間2回実施 地域防災訓練参加率： 中等部 13.0% 高校 5.2%</p>	C	<p>コロナ禍ではあったが、年間2回の防災訓練を実施した。 地域防災訓練については、中止となった地域もあるため、参加率を上げることができなかった。今後も参加率を目標にすることが妥当か検討する。自己都合で参加していない生徒が中高合わせて30%弱いることが課題。目標設定の変更についても検討する。</p>
		<p>講話や研修等の取組：月1回以上</p>	<p>職員会議や朝の打ち合わせの時間を活用してコンプライアンスに関する短時間研修や注意喚起を行った。</p>	A	<p>県からの文書を活用して確実に注意喚起等を行うことはできたが、校内の課題に対しての取り組みを工夫したい。</p>
カ	<p>環境美化、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。</p>	<p>平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底</p>	<p>平常時、1・2学期の始業式、終業式の全校清掃はすべて計画どおりに実施することができた。</p>	A	<p>感染症拡大防止の徹底を目標に掲げて、美化委員会を中心に、清掃活動にしっかりと取り組むことができた。</p>
		<p>予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回</p>	<p>6月の職員会議にて実施</p>	B	<p>適正な会計処理が行われた。 学校徴収金の取扱いなどの研修を実施し、職員の意識を高めることができた。</p>
		<p>夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月45時間以上の教職員数を前年度より減少させる</p>	<p>夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月45時間以上：31.8%</p>	C	<p>夏季休暇は100%取得したが、時間外勤務一ヶ月45時間以上の教職員は昨年(25.3%)を大きく上回ってしまった。多忙化の要因となる業務の削減を目指して改善に取り組む。</p>
		<p>職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了</p>	<p>職員会議は、各発言者の協力等により、概ね予定時間内に終了できた。</p>	B	<p>コロナ禍で、行事の延期や中止、内容の縮小について検討する必要が生じ、結果として会議が多くなり、資料も増えてしまった。来年は今年以上に掲示板を活用し、ペーパーレス化を進めていく。</p>